

2014 年度「多文化保育演習」報告書

——台湾保育研修——

陳 惠貞

摘要：2014 年度に台湾で行われた保育研修をまとめた報告書である。研修目的、期間と日程、研修成果について検討をした。学生たちは、海外保育研修で参観した保育士養成教育機関と幼稚園の様子を、学生の目線により記録した。保育士養成教育機関の施設・設備を見学し、現地大学生と一緒に幼児保育学科の授業を受けた。姉妹校の実習関連施設が工夫されていて、参考になった。研修中に7つの幼稚園を訪問したが、それぞれ特色があり、その中から5つを選び出しまとめた。他国の大学講義体験と多様な保育形態体験は貴重である。

キーワード：海外研修、多文化保育、保育研修

I. 研修目的

2007 年名古屋経営短期大学子ども学科が開学科以来、時代の要請に応じ、国際観を持つ保育士の養成を目標とし、「多文化保育演習」一環として海外研修を行ってきた。いままで、中国・スウェーデン・ハンガリーの3カ国で計7回の海外研修を実施、今年度の研修はアジアに戻り、台湾で実施することになった。今回の保育研修の第1の目的は、今まで通りに海外の保育・教育現場を見学し、保育への学びを深めることである。そして、第2の目的は、台湾の「育達科技大学」という姉妹校の幼児保育関連の学科を見学し、授業参加や外国の大学生と交流することである。

II. 研修期間

研修の実施期間は、2015 年 3 月 2 日（月）から 9 日（月）までの 8 日間であった。

III. 研修日程と内容

3/2(月) 名古屋 9:45 発/桃園第2ターミナル 12:15 着 チャーター車で苗栗県へ

① 大型スーパーへ日用品買出し、②育達科技大学キャンパス施設・宿舍案内

3/3(火) 午前：育達科技大学幼児保育学科の施設を見学し、【幼児観察】の授業参加

- 午後：応用日本語学科生と交流【生活日語会話】と【日本秘書実務】の授業参加
- 3/4(水) 午前：【愛児群幼兒園】幼兒園研修(桃竹地區)
- 午後：【瑞恩帝兒幼兒園】と【慈暉幼稚園】幼兒園研修(桃竹地區)
- 夕方：育達科技大学の歓迎晚餐会参加
- 3/5(木) 午前：【台湾大学附属幼稚園】幼兒園研修(台北地區)
- 午後：【康橋幼兒園】幼兒園研修(台北地區)
- 3/6(金) 午前：【愛彌兒幼兒園】幼兒園研修(台中地區)
- 午後：【娃得福幼兒園】幼兒園研修(台中地區)
- 3/7(土) 午前：育達科技大学から台北へ移動
- 午後：台北故宮博物館、士林夜市市場見学
- 3/8(日) 午前：絵本専門店グループと西門町グループの2グループに分かれ、見学
- 午後：九份見学
- 3/9(月) 台北出発名古屋へ帰国

Ⅳ. 研修参加者

学生：6名、全員女性（2年生と1年生各3名ずつ）

教職員：3名、女性教員2名と男性職員1名。

Ⅴ. 研修の成果

1. 学習意欲の高まり

「多文化保育」受講が必須条件で、この「多文化保育演習」の海外研修に参加することができ。今回の研修目的に備え、先生や子どもたち、大学生との交流を図るため、「多文化保育」で異文化の学習と研修先の言葉と文化・習慣を習得する特別講義を受けた。海外研修に参加した学生全員は、日本にある台湾教育センターの派遣講師による12回分の事前語学学習プログラムに参加した。講義内容は、以下の通りである。

事前語学学習プログラムの内容：

- (1) 1月8日、台湾教育センターの紹介と中国語の発音練習
- (2) 1月9日、発音の復習、四声調&台湾事情(位置、気温など)
- (3) 1月15日、発音・四声調の復習、中国語で名前の発音、
数字1～10の読み方、台湾の有名な美食紹介
- (4) 1月16日、自己紹介Ⅰ、簡単な他者紹介(他是○○○)
- (5) 1月22日、自己紹介Ⅱ&DVD鑑賞(台湾の夜市場屋台)
- (6) 1月23日、自己紹介Ⅲ&育達科技大学の紹介
- (7) 1月29日、自己紹介Ⅳ&客家文化紹介
- (8) 1月30日、自己紹介Ⅴ、数字(十桁と百桁)

- (9) 2月5日、DVD鑑賞(九份、金瓜石、基隆廟口などの紹介)
- (10) 2月6日、自己紹介Ⅵ&ゲームで数字を学ぼう(トランプ)
- (11) 2月12日、自己紹介Ⅶ・数字の復習、簡単な買い物会話
- (12) 2月13日、自己紹介Ⅷ・数字の復習、レストランで注文する会話

専門科目が詰まった時間割の中から、さらに特別講義を受けるのは、学生たちの負担になるではと心配をしていた。しかし、学生たちは真剣に学び、積極的に意欲満々に楽しく講義を受けたと派遣講師より良い評価を受けた。

2. 異文化での大学講義体験

海外姉妹校(育達科技大学)では幼児保育学科の「幼児観察」、応用日本語学科の「生活日本語会話」と「日本秘書実務」の授業に参加した。

幼児保育学科は専門科目である「幼児観察」の講義を受け、幼児の課題の遂行について遊びを通して、子どもたちの発達段階と心理を考えた。

応用日本語学科の「生活日本語会話」と「日本秘書実務」の講義では、姉妹校の学生たちが日本語の勉強を通して、日本の学生と会話することによって、日本語能力を確かめる良い機会となったと喜んだ。そして、本学の学生たちは現地の学生が外国語である日本語で会話することができることに驚き、良い刺激を受けた。また、この交流で、学生たちは現地に関する有力な情報をつかみ、その後の旅に役に立った。

3. 異文化での多様な保育形態体験

今回緊密なスケジュールが組まれ、3日間で7箇所の見学先が用意されていた。それぞれ特色のある園で大変勉強になった。本報告書で、学生たちの目からみた異文化での保育・教育を紹介することにした。

4. 節度のある行動・礼儀

学生6名中4名が初めての海外研修体験であった。事前に持ち物のチェックリストを作り、お土産まで用意周到であった。学内とは異なり、研修期間中の海外での行動は、言葉遣いが礼儀正しく、お互い助け合い、集合時間をしっかり守った。そのために、すべてスケジュール通り研修を順調に進めることができた。

5. 学生寮での学生同士の交流と共同生活

広大なキャンパスの中に学生寮があった。寮生活を味わうのも貴重な体験であった。学生たちは2つの部屋に割り当てられ、それぞれ部屋に住んでいる在学生の世話になった。生活全般の世話をうけ、年齢の近い大学生同士はすぐに仲良しになり、交流は帰国後も続いているようである。

ここで、特に言及したいのは、円滑な寮生活を送るために尽力し、学生同士交流の繋ぎ役として果たした本学科の卒業生で、筆者のゼミ生でもあった蓑谷さんという方の存在である。蓑谷さんは本学科卒業後、さらに進学し、研修期間中に交換留学生として現地にいた。研修メンバーにとって、積極的に留学し、勉学している憧れの先輩が現地にいたことで、心強いばかりでなく、模範として学ぶべきことも多かった。

短い期間の研修であったが、学生たちの成長が目に見え、さらに台湾の姉妹校との交流や多様な幼児園見学・学習など、充実した研修であった。



姉妹校の学生3名と一行



研修メンバー6名と本学科卒業の先輩



幼児保育学科の「実習成果」掲示板



姉妹校の学生寮



立派な図書館



キャンパスマップと観察された鳥類生態系

(名古屋経営短期大学子ども学科 教授)

3 月 3 日（火）育達科技大学の見学について

育達科技大学には、様々な学科があります。ここでは保育を勉強している学生の学科の紹介をします。

- 大きい掲示板があり、1 年生から 4 年生まで学年ごとの行事やどこで実習したのかということが分かるようになっていた。
- 造形室、モンテッソーリ教室、環境を設定する教室、ピアノの練習室、プレゼンする部屋など沢山の部屋があった。
- 乳児保育の国家試験は難しい。試験には、4 つの実技と筆記試験がある。
①手洗い ②ケガなどを治す救急 ③離乳食のやり方 ④入浴のやり方
- 実習へ行く前や試験の練習できるところがある。環境を設定する部屋では、①遊戯治療 ②造形 ③おもまごと ④言葉、絵本に分かれていた。
- ピアノの部屋では、電子ピアノがたくさんあり、イヤホンをして個人指導が出来るようになっていた。先生のところに個別指導用のスイッチがあり、先生がスイッチを押すと弾いているピアノの音が先生に伝わり個人指導が出来るというハイテクな設備であった。最近では、専門科目であるピアノを電子ピアノに移行する。
- プレゼンする部屋では、実習前に模擬保育として実践をして、それをビデオに撮り、討論をする部屋がある。

学科を見学後、幼児保育学科の「幼児観察」、応用日本語学科の「生活日本語会話」と「日本秘書実務」の授業に参加することができました。

ちょうど、バレンタインデーが過ぎた頃だったので日本と台湾の違いについて話し合いました。まず、日本語で話をしても通じることに感動しました。

日本の場合、女性から男性にチョコを渡すのですが、台湾の場合、男性から女性へ、食事やアメなどのプレゼントを送るそうです。台湾の女性の人が羨ましいと思いました。他にも日本料理や台湾料理についてお話をしたり、芸人やキャラクターのお話をしたり、楽しく過ごしました。



育達科技大学



学年ごとの実習掲示板

(鵜飼 彩夏)

3月3日（火） 育達科技大学での授業参加について

育達科技大学では設備の見学だけでなく実際の授業にも参加して育達学生と交流を図りました。

午前中は幼児保育学科の「幼児観察」の授業に参加しました。グループごとに、たくさんプリントされている図形を使い、1人の学生が図形通りに並ぶ作業をする幼児のまねをします。グループのほかの人は、図形通りに作っている人を観察し、その心理を考えていくという授業でした。作っている人が何を思っているのかを感じ取るのが難しく感じました。また実際に図形を作ってみるとプリント通りに作るのが難しく、できた時の達成感がうれしかったです。



「幼児観察」授業の材料



「幼児観察」の授業風景

午後は2つ応用日本語学科の授業に参加し、その学生と交流をしました。最初は交流ができるのか不安でしたがお互いに漢字圏ということもあり、日本の漢字を見せると言いたいことがある程度伝わり、会話ができました。またそこで知り合った学生の人たちと連絡先を交換したり、日本の芸能なども中国では有名だったので好きな芸能人の話などもしたりしてとても楽しく、貴重な体験でした。



応用日本語学科生と交流「生活日本語会話」と「日本秘書実務」の授業風景

（宇井 真梨胡）

3 月 4 日（水）愛児群幼稚園

愛児群幼稚園は、

- 年長 5 クラス、年中 2 クラス、年少 1 クラスである。
- 建物的には色鮮やかで壁面がとてもきれいだ。
- 日本では、ほとんどの園庭が砂でできているが、その園では、ゴム製の床になっている。
- 園の特徴は、劇があり、子どもも先生達も劇団員みたいに本格的にやっている。
- 長年やっている園であり、小学生、中学生、高校生、大学生になっても保育園に遊びに来るという園である。
- 制服があり、上がオレンジ色、下が緑色である。先生達も着ている。
- コーナー遊びをしている。
- 学童保育もしている。



愛児群幼稚園の外見



園長の説明を聞いているところ



通訳してもらっているところ

私たちが行ったときは、私たち以外にも見学者がいました。はじめ、本がたくさんある部屋に行き、スライドショーで園の概要を聞き、短い間でしたが保育中の現場を見ることが出来ました。

お昼もその園で食べさせていただきました。

私の感想なのですが、日本人の子どもたちに比べて身長が高いと思いました。保育中に子どもたちは沢山の言葉を話してくれましたが、私は、中国語を少ししかやっていなかったので全く分かりませんでした。そこで言葉の大切さを学びました。

子どもたちは、さまざまな遊びをしていました。それが私には、自由にやっているように見えたがテーマがあり、子ども自身が計画をしたことをやっていました。例えば、「今日のはつみきを6個積もう!」とかです。それを先生と話す機会があるそうで、その時に経験したことを子どもが話をして、先生が文章化することをやっていると聞きました。だから、子どもたちは遊びながらも先生に沢山のことを子どもたち自身から話すことが出来るのだと思いました。

私が疑問に思ったことは、2つあります。

- ① 子ども用のヘルメットが沢山廊下にぶら下げられていました。台湾は、車よりバイクを使う事が多いと聞きました。送り迎えもバイクに乗るため、だからヘルメットがあるのかなと思いました。
- ② 庭にあるバスケットゴールが高いこと。園児達の身長では届かないぐらいの高さにバスケットゴールがありました。それは、学童保育をしている子達のためということと園児達もお兄さんやお姉さんの遊びを見て、大きくなったらやりたいと思えるようになっていると説明されました。



園庭と園庭にある高いバスケットゴール



みんなで記念撮影

感想

台湾にはじめていった私は、まず、バイクの多さに驚きました。ご飯の量も多く、美味しいものばかりで太ってしまうと思いました。台湾の人達はとても優しく、一週間というとても短い間でしたが、とても親切にしてもらいました。感謝しています。それと7つの幼稚園や保育園に行き、どこも個性的に素晴らしい保育をされていました。日本とは、文化が違いますが、日本に帰って取り入れられるところは取り入れたいと思いました。

今回一週間行って、人の優しさや文化の違いについて学ぶことが出来たので台湾保育研修に行
って良かったです。ありがとうございました。



愛兒群幼稚園で食べた
魚団子のスープ

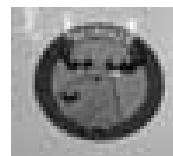


愛兒群幼稚園で食べたお弁当、
骨付き鶏もも肉、魚団子スープ、果物

(鵜飼 彩夏)

3 月 4 日（水）瑞恩帝兒幼稚園

瑞恩帝兒幼稚園は、REINDEER（トナカイ）がシンボル。このトナカイにはトナカイの
角のように広がっていくという意味がある。



コンセプトは、子どもたちが幼稚園に行きたいと思えるような楽しい場所。



園児数：1,000 人

職員：150 人

面積：1,200 坪



環境：スクールバス 16 台。事故防止のためバスのドアはすべて開けておく

1 階が年少、2 階が年中、3 階が年長。

2 階には野菜栽培のスペースがあり、観察ができる。



建物のタイル
は商標登録さ



れている。入口の壁は手作りで 9000 万円。廊下の壁には植物や動物などの特注タイルが貼られている。階段のスペースには童話など物語の特注タイルが貼られている。

子どもたちの椅子には一人ひとりの名前が書かれている。クラスには 2 人の先生が配置され、特別な支援が必要な子についてはクラスに均等に分けられている。給食室は、職員が働きやすいように冷房が利いていて、音楽が流れている。

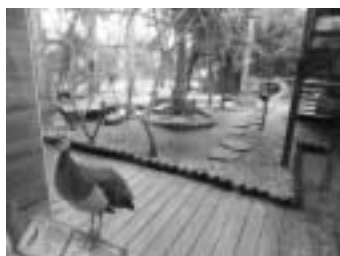


教学： コンピューター、音楽・バイオリン、英語、美術、モンテッソーリの教具等がある。

バイオリンは、年長になると必修になる。バイオリンを教具として貸し出している。



↑ トイレの設備（シンボルのトナカイ、タイルは
商標登録されている）



← トイレの通路から鳥類の観察ができる



動物コーナー（兔・亀・山羊…など）



昆虫コーナー



色鮮やかなジャングルジム



賞品交換所コーナー



賞品交換所があり、子どもたちにとって魅力的な賞品をたくさん並んでいる。良いことをするとシールがもらえ、そのシールが集まるとご褒美としてキーホルダー、シール、マグカップ、絵の具など好きな物が貰える。大人気の幼稚園で子どもが生まれる前から予約する保護者が増えている。

感想

この台湾研修ではたくさんのことを学ぶことができました。台湾の幼稚園を訪問し、台湾の子ども達の様子や台湾での幼稚園の役割など様々なことをみることができ、とてもいい研修ができたと思います。特に瑞恩帝兒幼稚園での見学では、施設の規模の大きさにとても驚きました。壁の模様や階段、床にもかわいらしいデザインがされており、門をくぐった瞬間からわくわくするような楽しい気分が味わえる工夫がしてあり、まるでテーマパークのようでした。また、遊具がとても大きくカラフルだったり、鳥やうさぎ、カメなどを自由に観察できるスペースもありました。いろいろなところから、子ども達が「楽しい」「明日も幼稚園に行きたい」という気持ちで毎日幼稚園に通える環境に作られていました。日本とは少し異なる楽しさがあり、日本との違いを知ることができました。

(長嶋麗早)

3月5日(木) 台湾大学 附属幼稚園



- ・台北市内にある台湾大学の敷地内にあり、1クラス30名の合計4クラスで構成されている。
- ・都市型の幼稚園ではあるが、自然環境を大切にしており、四季の植物を栽培して、五感も大切にしている。

○一日の時間割

時間	活動内容
7:30-8:30	登園
8:30-9:00	体力を培う、絵本の読み聞かせ、感受性、良い生活習慣(生活管理)
9:00-9:30	牛乳を飲む
9:30-11:30	プログラム活動
11:30-12:20	昼食
12:20-14:20	読み聞かせ、音楽と昼休み
14:40-16:00	おやつの時間、図書室で本を借りる、玩具遊び、園の活動話し合う (社会問題、倫理教育、命の教育)
16:00-	降園準備(リュック、食器、水筒を片付ける)、自由遊び
17:20	降園(お迎えの保護者に引き渡す)

○環境



・園庭の地面に交通のマークが描いてあるのは、自主性を養ったり、社会との変化がないように交通安全を学んでいる。



・園内の整備は子どもも保育者も園全体で守るようにしている。

※雑巾のたたみ方、干し方、しぼり方、給食を食べ終わった後の整理整頓など



- ・野菜を栽培するエリアがあり、子ども自身もつんで食べてみて自然を感じる
- ・他にも木の家や運動場、大型遊具、図書室、裏庭が完備されている。

○教育活動

- ・人格教育として、友情、責任感、感謝、整理整頓を大切にしている。
- ・いい習慣として、片付け、水分補給、手洗い、食後の歯磨き、挨拶を大切にしている。
- ・スポーツは、リレーレース、自転車、うんてい、フラフープを行っている。
- ・子どもがクラスの子の前や送迎区で絵本の読み聞かせをしたり、自分で読んだりしている。

○家庭との連携

- ・保護者はボランティアや親の会、親による講座、親のセミナー、親子活動を行っている。
- ・保護者の技術能力が高く、保護者との関係を大切にしている。
- ・eメールやLINEで情報を伝えている。
- ・家庭教育を重視し、人間関係を重んじている。
- ・家庭が安定することによって、ボランティア精神や社会貢献、思いやりの心を大切にすることにつながる。

- ・全ての保護者がボランティアをすることを義務付けられている

※3,4歳のたてわりクラスと4,5歳のたてわりクラスが合わせて4つある。1週間のスケジュールが掲示板にある



- ・保護者は、自分の目で子どもの姿や保育者、環境をみて改善案などを出す

○卒園するためには…

・卒園するためには5つのハードルがある。

- ① うんてい ②なわとび(連続20回以上) ③フラフープ ④自転車(台湾大学キャンパスを一人で1周) ⑤リレー(転ばずにみんなで1周、バトンタッチを上手く、みんなを応援すること)

○その他の概要



・自転車は、普段の体力づくりにもなる。最初は、ペダルなしでコントロールや平衡感覚を養い、次にペダルが少しある状態で車輪とペダルの連帯関係を知る。最後は、ペダルが全部ある状態でこぐと自然とできるようになっている。

・指導の一環として、親子での宿題があり、毎日テーマが違う(一学期で一冊の冊子ができるほど…)

※保育者が言うのではなく子ども自身が自主的に行うようにする

※やんちゃな子には、みんなと違う宿題が出される(友達とのトラブルについてなど…)

○感想○

8日間台湾に滞在して、最初は会話ができるのか、どんなところなのか不安だらけでした。でも、養谷先輩や育達科技大学の人たちが優しくフォローしてくれたので、そんな不安はすぐなくなりました。

育達科技大学の図書館は本学の図書館よりもはるかに大きく、本の種類もたくさんあったので、調べものの時などとても便利だと思いました。

幼児保育学科の模擬教室などの施設がとても充実していて、羨ましかったです。

たくさんの台湾の幼稚園を見て、アットホームなところもあれば、しっかりとした教育の場というところもあったけど、全体を通して思ったのはプールやピアノが少ないことです。日本では基本どの園にもあるので驚きでした。

日本の幼稚園よりも台湾の幼稚園の方がしっかりとした勉強をしていたり、ある園の年長さんはかなづちを使っていたので、台湾の方が進んでいるのかなと思いました。

台湾の文化や人に触れ、もっと台湾のことが知りたくなったし好きになりました。

(吉野 真保)

3月5日(木) 康橋幼稚園

保育見学二日目の午後は康橋幼稚園の見学をした。康橋幼稚園は、住宅街にあり小学校と併設されていた。園児たちは小学校の施設も使うことができる。この幼稚園は学園の一部で大学まであり、常用語として英語が使われている。日常でつかうようにと実際に使うことのできる本物そ



っくりな航空模型、飛行機模型、病院、服屋、食べ物屋、郵便局まである。さらにこの学校内だけで使える通貨があり、それで物が買えたり、お店で働いてお給料としてもらうことができる。そのお金を預けるための銀行までもがこの敷地内にはある。宿題をするスペース、資料コーナー、園児専用の図書室、プールなど様々な施設が整っている。

この学園全体の取り組みとしてとても本を読むことを重要視していて本をたくさん読めば読むほど点数が与えられてその点数に応じた景品がもらえるシステムになっている。その景品は様々で図書カード、トロフィーや賞状、寄贈された本にも変えることができる。さらには科目として本を読む科目まである。

幼稚園エリアでもほぼ英語で保育が行われている。一クラスは20人～25人となっている。ここだけの

通貨は、園児の時から使用することができる。本を読むことは幼稚園の時からで、幼稚園専用の図書室があり、クラスごとに図書館へ本を借りに行く。





小学校と共同で使っている演劇ホールがあり、歌を披露したり、演奏会を開いたりするためだけに作られた。480 席あり、入学式などにも使われる。

屋上には小さいトラックがあり、少しくッションが入っているように感じた。主体性を大切にしている、遊具も自分の遊びたいものを選択して遊ぶ。ものすごく高いアスレチック的なものあり、命綱なしのそれに挑戦するのも自分の判断で決める。

所々に園児たちが書いた絵や作った作品などを美術館、博物館のように展示してあった。さらに生態観察のために敷地中に広大な自然がある

康橋幼稚園はとても広い敷地の中に子どもたちのためになる施設が揃っていた。

使える英語を育てるために本物のモデルがあつてすごいと思った。

とても自主性を大切にしているこの学園でも自分からやりたいと思った時にやらせるという考えで保育内容を構成していた。



感想

三日間の幼稚園見学を通して感じたのは、外見からこだわっていると感じた。どこの幼稚園もかわいらしい外見だったと思う。また、自主性をとても大切にしていることだ。台湾では先生の方から遊びの提案をあまりしない。子どもたちが迷っていたらヒントを出して子どもたち自ら答えを導けるように促すことが多いと感じた。その為か年少ぐらいの子でもカッターやハサミなどを使う様子も見られた。日本は子どもに指示を与えすぎかもしれないと感じた。一番感じたことは、一部の幼稚園ではあるが、親目線で色んな物事が決まっていると感じた。保育内容が子ども主体ではなく、親主体と感じた。日本のように子どものために何ができるかではなく、親にこの園を選んでもらうにはと一つの商売として考えているのかもと思った。

台湾研修はとても楽しかった一週間だった。育達科技大学での生活は寮で生活するのは初めてで不安もあったが、ルームメイトの人がとても優しく、安心して過ごすことができた。台湾の人はとても朝が早く、生活のリズムを合わせたり、朝から外で食べる習慣にも慣れていくのが大変だった。育達科技大学の日本語学科の人たちと話をした時に、すごく日本語が上手でとても驚いた。

土日には台湾を観光した。故宮博物館へ行ったり夜市へ行ったり九份へも行ったりした。台湾の美味しいものをたくさん夜市で食べて、日本語学科の学生ともお友達になったりしてとても充実した台湾研修だったと思う。



←台湾の朝食



故宮博物館 →



←マンゴかき氷

(宇井 真梨胡)

3月6日（金）娃得福幼兒園



・ドイツの『シュタイナー教育』を取り入れていて、他の幼稚園が学習面や親への考慮を優先させる中、『子ども中心』の教育を実施。

・とても四季や自然を大切にし、台湾では珍しくプールや砂場があるなど他の幼稚園ではなかった設備も充実。

ある日の1日のスケジュール

時間	活動内容
～7:30	登園
7:30～	自主活動
	体操
12:00	蜂蜜ロウで人形作り
	外遊び
12:00～	布遊び
16:30	

環境

・ホールは保護者が壁の色を塗り、子どもたちが落ち着ける空間になっている。



・部屋全体がカーテンで囲まれており、やわらかい光が差し込み、子どもたちが落ち着いて活動できる空間になっている。

・部屋の光も少し暗めである。



・部屋に置いてあるおもちゃは貝殻、布、木など、自然のものが多く、子どもたちがそれを使い、自分たちで想像して遊べるようになっている。

- ・台湾には珍しく、屋上にプールがある。

全体的に子どもたちが落ち着いて過ごせる環境作りをしており、その工夫が壁や、部屋全体におかれている。



教育活動

- ・絵本の読み聞かせは本を使用せず、保育者の口から子どもたちに伝えるという方法をとっている。絵本だけでなく、歴史や物語も同様である。
 - ・保育者から遊びの提案はせず、子どもたちの想像力にまかせている。
- ただ見守るだけでなく、保育者も間接的に遊びに参加し、子どもたちのお手本となるようにしていた。
- ・子どもたちの遊びの中でのアイディアを崩さず、実現できるにはどうしたらいいのか一緒に考え行動し、創造力を育む。
 - ・台湾では珍しく、卒園するためのハードルはなかった。

感想

1週間台湾に滞在して思ったことは、人がとても素晴らしいということでした。台湾の皆さんは、先生方も生徒さん方もとても優しく親切で、おかげでとても楽しく、身になる1週間を過ごすことができました。

また、3日間、7種類の幼児園を見学し、日本よりも保育の仕方にバリエーションを感じ、とても驚きました。子どもの自立を促す保育をしている園、子どもの想像力や創造力を養える保育をしている園、体力づくりに力を発揮している園など、実に種類が多く羨ましく思いました。

私がまとめた『娃得福幼兒園』はシュタイナー教育を実施しており、部屋の内装や、置いてあるおもちゃ、日課など他の園よりも子どもがゆったりと園生活を送れるような仕組みになっていると感じました。また一番、日本の保育園に似ている部分が多いように思いました。子どもの創造する力を高め、子どもがやりたいように遊べる空間はとても良いと思いました。

育達科技大学は、とても大きくて、図書館は広さがあつたり、通信機器が完備されていたり、自習室があつたりとたくさん利用したくなるような空間でした。また幼児保育学科は、恩物がたくさんあつたり、保育室さながらの部屋があるなどとても充実しているように思いました。

台湾で1週間過ごし、日本との違いを学んで、取り入れてみたいことがたくさんありました。文化や習慣など学ぶことができ、本当に楽しい実のある1週間を過ごすことができました。本当にありがとうございました。

(正者 和果奈)